

平成 18 年 3 月 9 日

## 中高生及び保護者等の携帯電話利用実態調査レポート

モバイル社会研究所

遊橋 裕泰

### 要旨

携帯電話の利用によって中学生、高校生のライフスタイルが変化したという事は周知の事実である。だが、どのように変化しているのかという事に関しては様々な噂や言説があり、噂の域を出ていない多くのトピックスが世間を騒がせているのが実情だろう。

特に昨今、社会問題化している青少年保護の視点からは真の実情に基づく対応が求められている。そこで、青少年保護に寄与すべく「家庭での対応」や「交友関係」に着目して携帯電話の利用実態調査を行った。

### 1. 調査概要

#### 1 - 1 . 中学生、高校生属性

##### 【調査対象】

中学校、高等学校の生徒

##### 【調査エリア】

東京都、神奈川県、群馬県、茨城県、静岡県、長野県、奈良県、鳥取県

##### 【サンプル数】

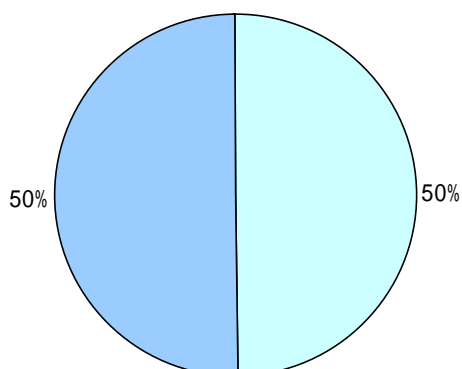
中学生：1,506 サンプル（協力 16 校）

高校生：3,115 サンプル（協力 22 校）

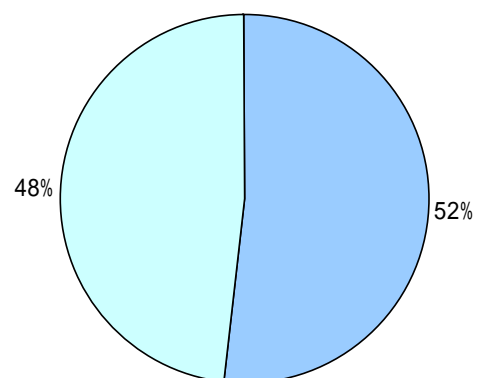
##### 【サンプル比率】

男女比 < 中学生 (n=1,488) >

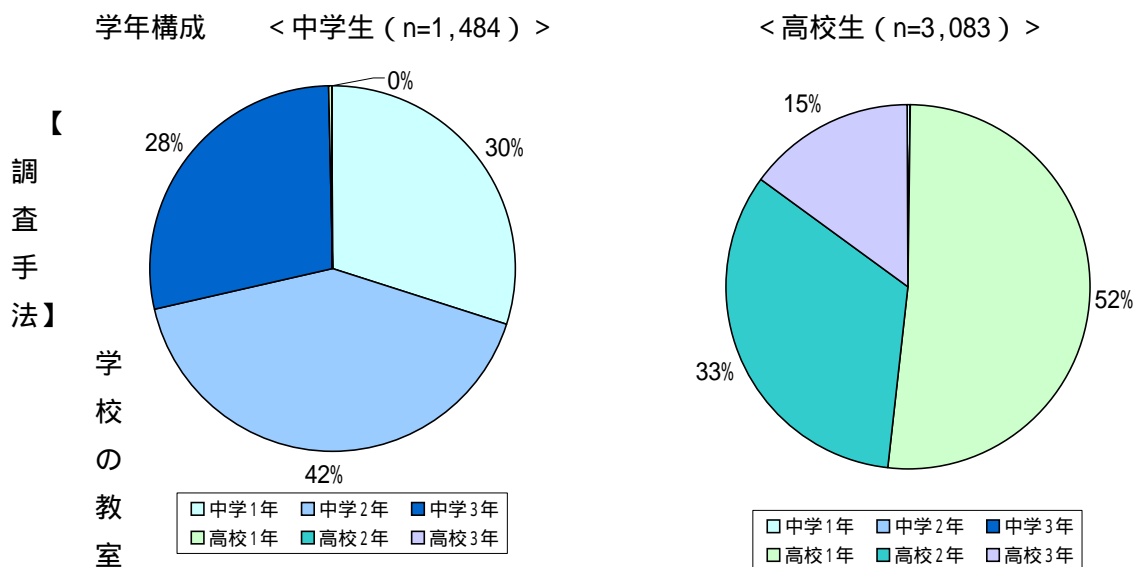
< 高校生 (n=3,095) >



□男性 □女性



■男性 □女性



でのアンケート用紙配布及びその場での回収。オペレーションは学校教職員による。

【対象者抽出方法】

基本的に調査協力校における全生徒を抽出。(ただし、一部科やコースでの限定実施及び当日の出席状況などの要因がある。)

【調査スケジュール】

2005年10月～2006年1月

【質問数】

生徒向けアンケート：39問

1 - 2 . 保護者属性

【調査対象】

中学生、高校生の子どもをもつ保護者

【調査エリア】

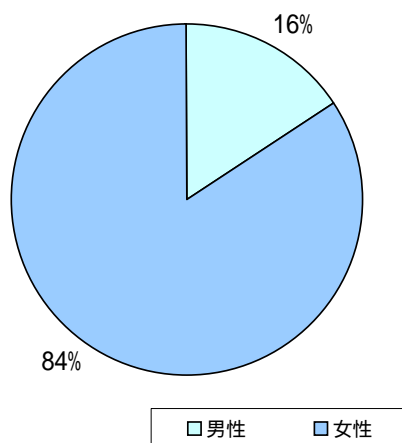
東京都、神奈川県、群馬県、茨城県、静岡県、長野県

【サンプル数】

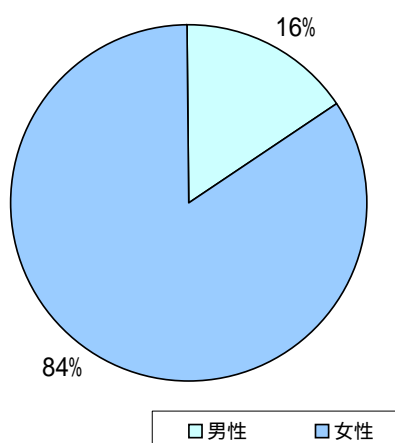
中高生保護者：1,625 サンプル (協力10校及び、ランダム実施4地域)

【サンプル比率】

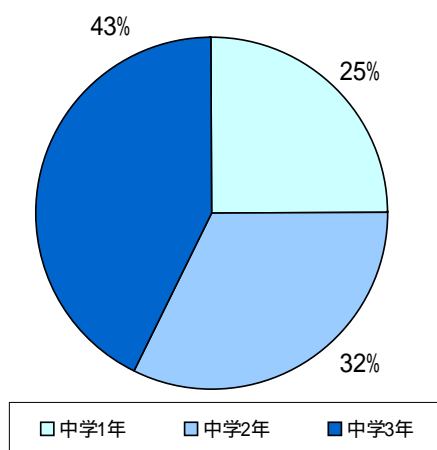
男女比 < 中学生保護者 (n=544) >



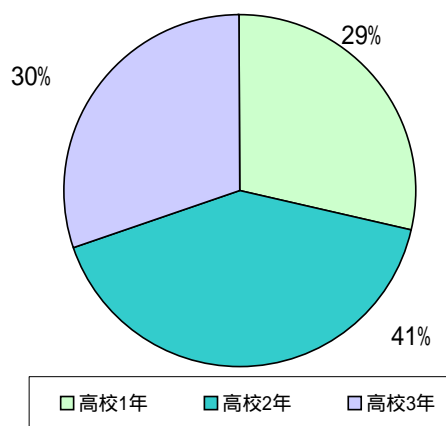
< 高校生保護者 (n=1,049) >



学年構成 < 中学生 (n=546) >



< 高校生 (n=1,051) >



【調査手法】

保護者会合でのアンケート用紙配布及びその場での回収。オペレーションは PTA 役員や学校教職員などによる。

【対象者抽出方法】

調査協力教育委員会もしくは協力校での無作為抽出。

【調査スケジュール】

2005年10月～2006年1月

【質問数】

保護者向けアンケート：58問

1 - 3 . 教職員属性

【調査対象】

中学校、高等学校の教職員

【調査エリア】

東京都、神奈川県、群馬県、静岡県、長野県、奈良県

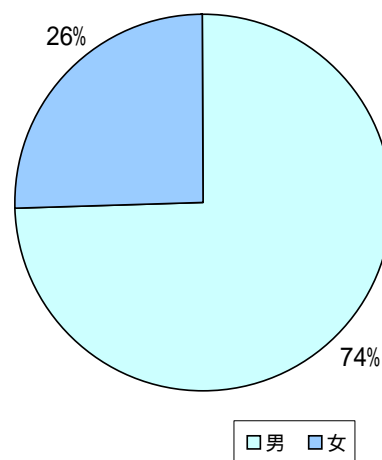
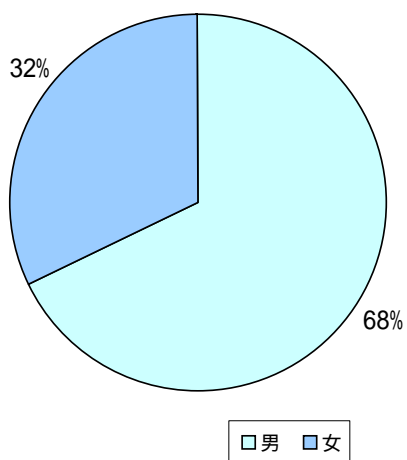
【サンプル数】

中学高校教職員：344 サンプル（協力12校）

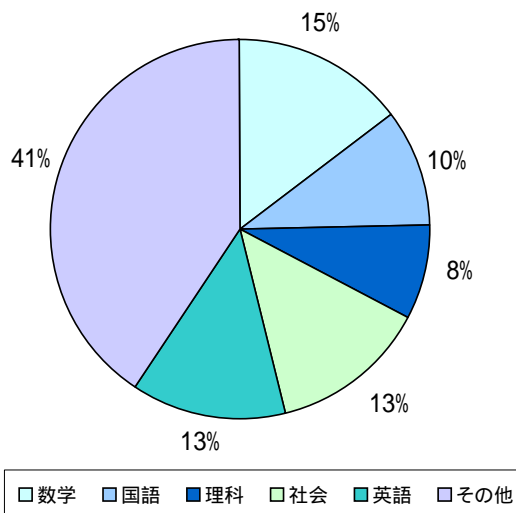
【サンプル比率】

男女比 < 中学生保護者（n=140） >

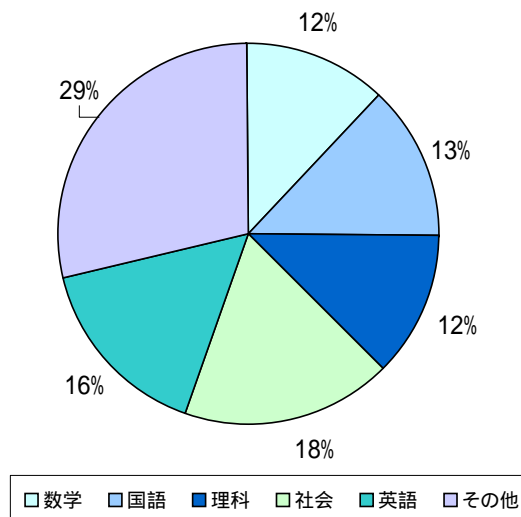
< 高校生保護者（n=191） >



担当教科比 < 中学生保護者 (n=137) >



< 高校生保護者 (n=190) >



【調査手法】

中学校、高等学校職員室でのアンケート用紙配布及びその場での回収。オペレーションは学校教職員による。

【対象者抽出方法】

協力校での無作為抽出。

【調査スケジュール】

2005年10月～2006年1月

【質問数】

教職員向けアンケート：63問

<注意>

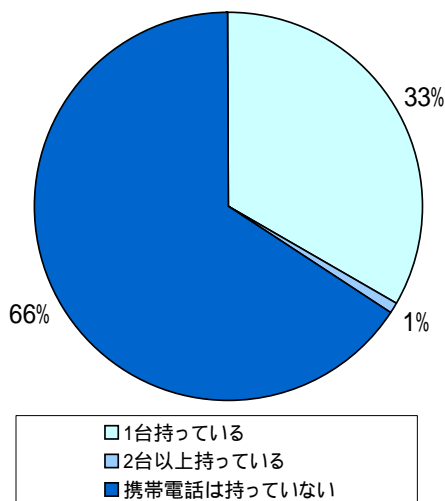
本レポートは、群馬大学社会情報学部の下田博次教授（下田研究室）と共同でおこなったアンケート調査の概要を取りまとめたものである。なお、以下に紹介するデータの解釈や解説はモバイル社会研究所で加えたものであり、下田教授の分析は加わっていない。

## 2. 中学生、高校生の携帯電話利用

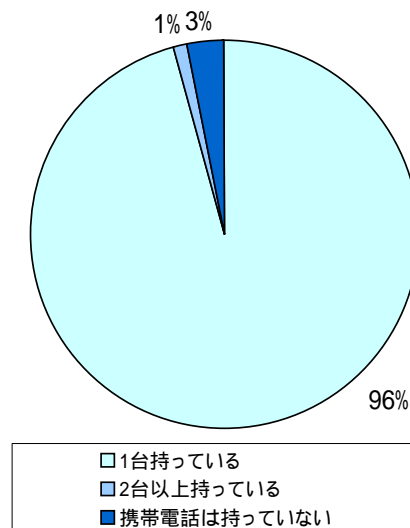
### 2-1. 携帯電話利用状況

携帯電話の保有率は、中学生で34%、高校生で97%という結果になっている。日本PTA全国協議会実施の調査「平成16年度 家庭環境におけるテレビメディア調査/青少年とインターネットなどに関する調査」によれば、中学2年生の携帯電話保有率が35.1%、PHS保有率が0.8%となっており、同調査と比較的近い値となっている。だが、前年にモバイル社会研究所で実施した全国無作為抽出の郵送アンケート調査では中学生で66.7%、高校生で96.0%となっている。高校生の保有率に関しては今回とほぼ同じ値となっているが、中学生での保有率に大きな違いがある。中学生の段階では高校生以上に携帯電話の保有に関して保護者の意向が働く。今回の調査では、調査協力校の抽出や地域に偏りがある点を考慮すれば中学生の携帯電話保有率は学校や地域によって違いがあるのではないだろうか。一方高校生では、地域性によって差が出ないほどに保有率が高いのが実情のようだ。

【携帯電話の保有率】 < 中学生 (n=1,485) >



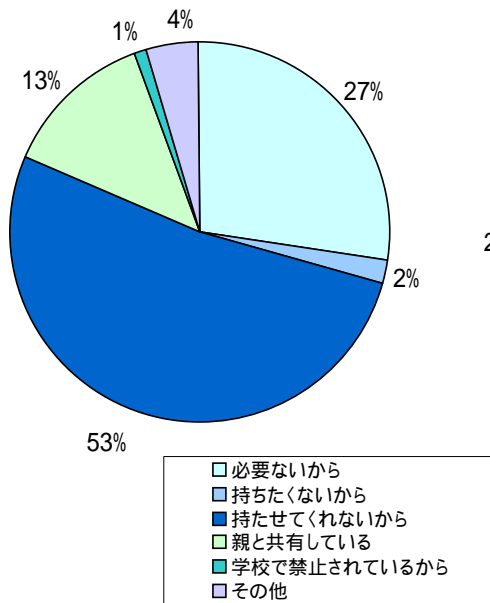
< 高校生 (n=3,109) >



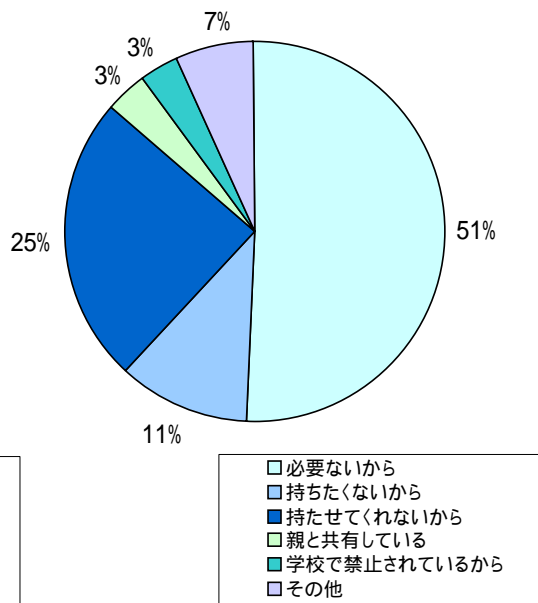
また、中高生が携帯電話を持たない理由としては、中学生では保護者からの抑制で「持たせてくれない」という理由がトップで53%となっているが、高校生では「必要ないから」という自分の意志で保有していない割合が51%でトップとなっている。

もう1点、着目すべきポイントとして、中学生で未保有者の13%が「親と共有している」と答えている。携帯電話の持ち始め時期のあり方として保護者と共有という考え方も現実的な一つの解法となっているようだ。

【携帯電話の保有率】 < 中学生 (n=1,485) >



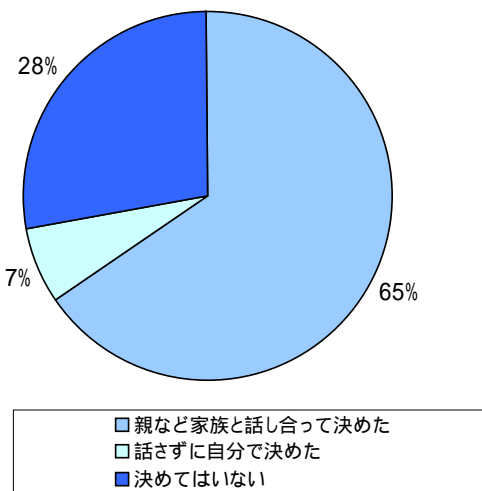
< 高校生 (n=3,109) >



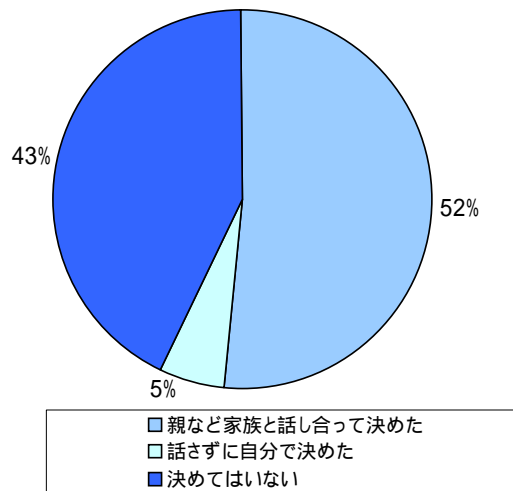
## 2 - 2 . 家庭内ルール

中高生の携帯電話利用において注目されていることの一つに「家庭内ルール」がある。特に携帯電話は、インターネット接続端末として日常の活動範囲を超えて Web サイトの様々な情報にアクセスすることや、メールを利用することによる交友関係の拡大が想定される。今まさに社会問題となっている青少年問題との関係も携帯電話やパソコンのようなコミュニケーション・メディアとしての効能の裏返しでもある。主な対策として、情報環境の健全化と、子どもたちの対応力強化が考えられるが、子どもたちの対応力強化の一つの方法が家庭での携帯電話利用に関するルールの取り決めである。

【家庭内ルールの有無】 < 中学生 (n=507) >

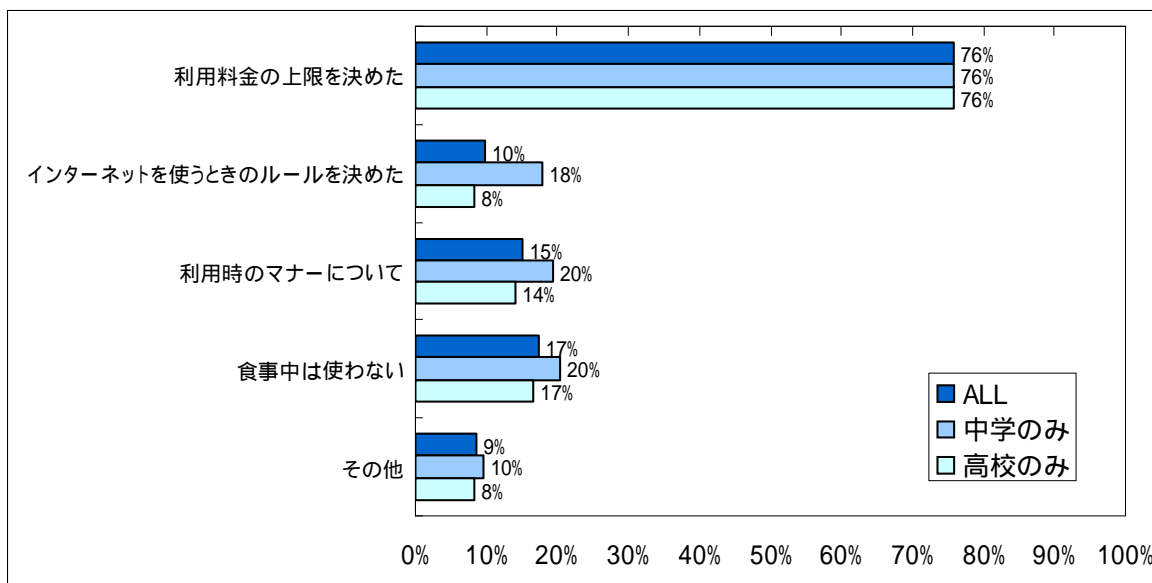


< 高校生 (n=2,997) >



携帯電話保有中高生の内、中学生の65%、高校生の52%が保護者と話し合って家庭内ルールを決めている。割合だけを見れば概ね高率であると言えそうだが、問題はその中身である。家庭内ルールの中身に関する質問（複数回答）では、利用料金に関する取り決めが76%となっており、ついで利用時の状況や場所に関するルール「食事中は使わない」と「利用時のマナーについて」、そして利用情報に関連した「インターネットを使う時のルールを決めた」が次いでいる。だがこれらTPOにあわせた内容のものは利用金に関するルールと比較するとかなり低い割合であると言える。利用金以外にもう少し利用の内容に踏み込んだ家庭内ルールの取り決めが必要であろう。

【家庭内ルールの内容 < 中学生 n=369、高校生 n=1,698 >】

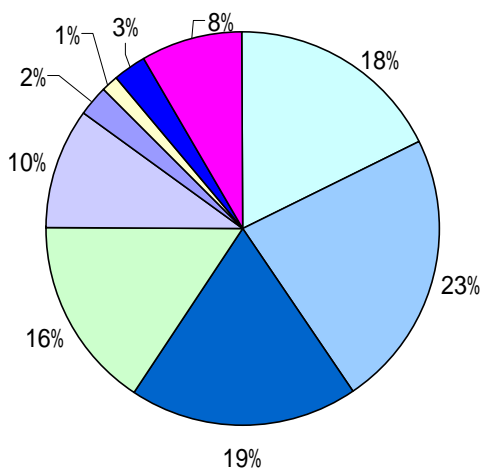


### 2 - 3 . 携帯電話の利用料金

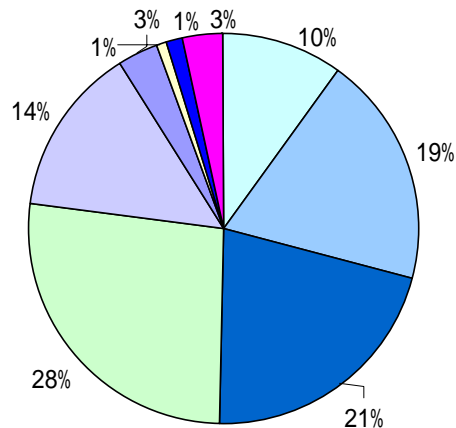
中高生の携帯電話利用の実態として取りざたされる話題は、利用料金が数万円にもなっているというものが多い。だが実際の利用としては、そのような高額利用が一般的ではないことを明らかにしている。ボリュームゾーンが中学生では「4千～6千円」、高校生で「6千～8千円」となっている。

現在（平成 17 年 12 月時点）通信キャリア発表している ARPU（加入者一人あたりの月額平均収入額）は、NTT ドコモが 7,200 円、KDDI の au が 7,170 円となっており、携帯電話の加入者全平均と比べて必ずしも高水準にある訳ではない。

【携帯電話の利用料金】 < 中学生（n=508） >



< 高校生（n=3,003） >



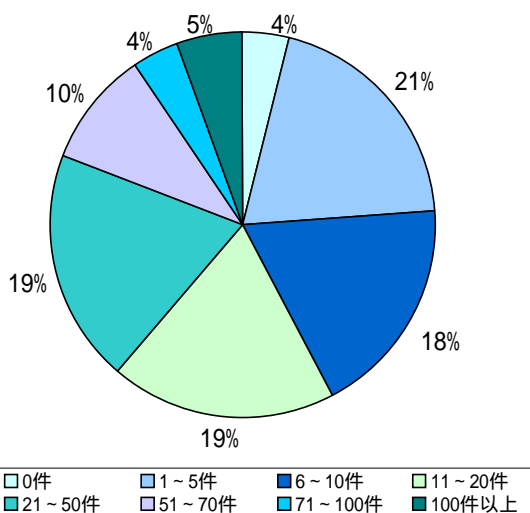
～4千円	4千～6千円	6千～8千円	～4千円	4千～6千円	6千～8千円
8千～1万円	1～1万5千円	1万5千～2万円	8千～1万円	1～1万5千円	1万5千～2万円
2～3万円	3万円以上	料金は知らない	2～3万円	3万円以上	料金は知らない

### 2 - 4 . eメール

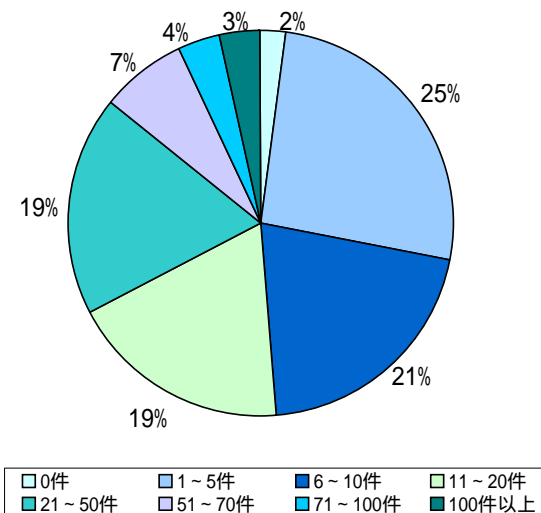
携帯電話を利用した中高生のeメール利用率は98%となっている。最も利用率が高い機能がこのeメールである。送信数と受信数で差はなく、受信とほぼ同数の送信を行っている状況が判明した。中高生に対して迷惑メールが大量に送られてきている場合は、送信数と受信数に差異が現れるはずなので、中高生ではメールのフィルタリングサービスをうまく利用していることや長いメールアドレスの利用などの工夫によって、あまり多くの迷惑メールを受け取ってはいないということが想定される。（ここでは、メールの受信数で解説を行う。）

また、中学生と高校生ではメールの利用件数の傾向はほとんど変わらない。メールの利用に限定すれば、時差祈りよう内容に関しても中学生の利用状況と高校生の利用状況にほとんど違いはないのだろう。

【eメールの受信数】<中学生 (n=513)>



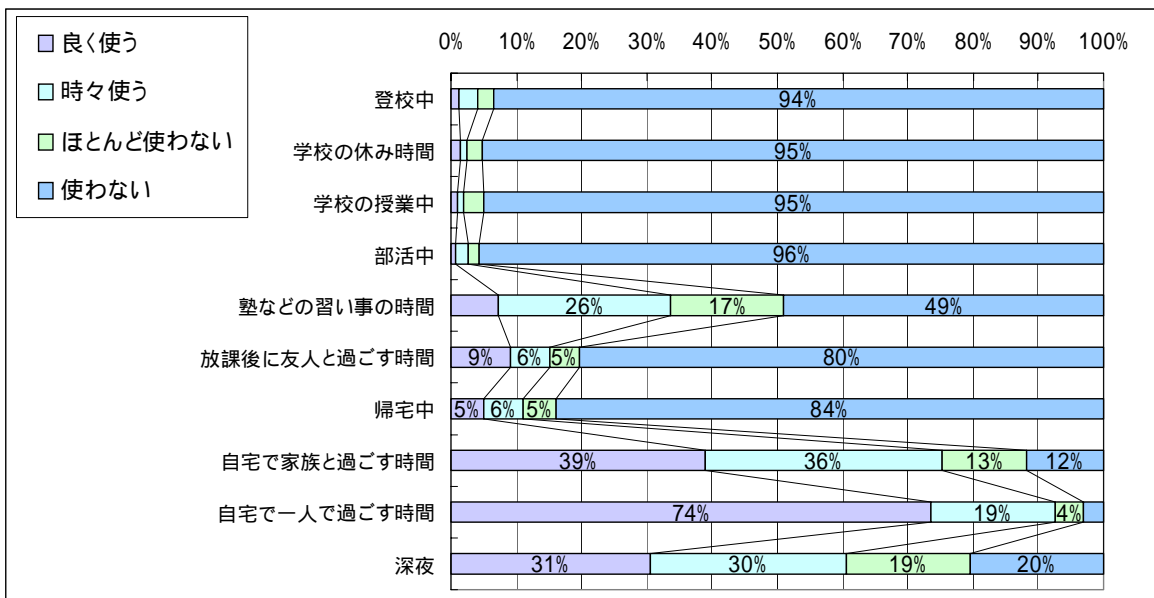
<高校生 (n=2,998)>



では次に、利用のシチュエーションはどうなっているのだろうか。利用する時間帯について尋ねたところ、自宅で一人で過ごす時間に携帯電話のeメール機能を利用すると答えた割合が圧倒的に多く、中学生、高校生共にその傾向は変わらない。

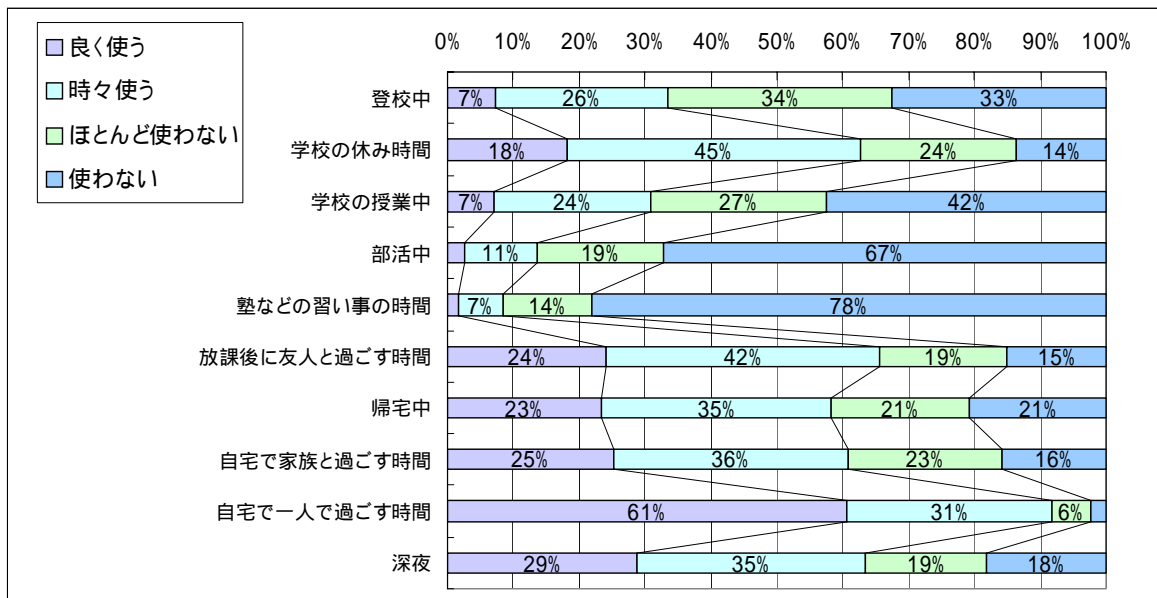
【中学生のeメール利用時間帯】

N=497    N=497    N=500    N=495    N=495    N=499    N=494  
N=502    N=506    N=496



【高校生のeメール利用時間帯】

N=2986    N=2986    N=2986    N=2825    N=2647    N=2969  
N=2980    N=2969    N=2988    N=2983

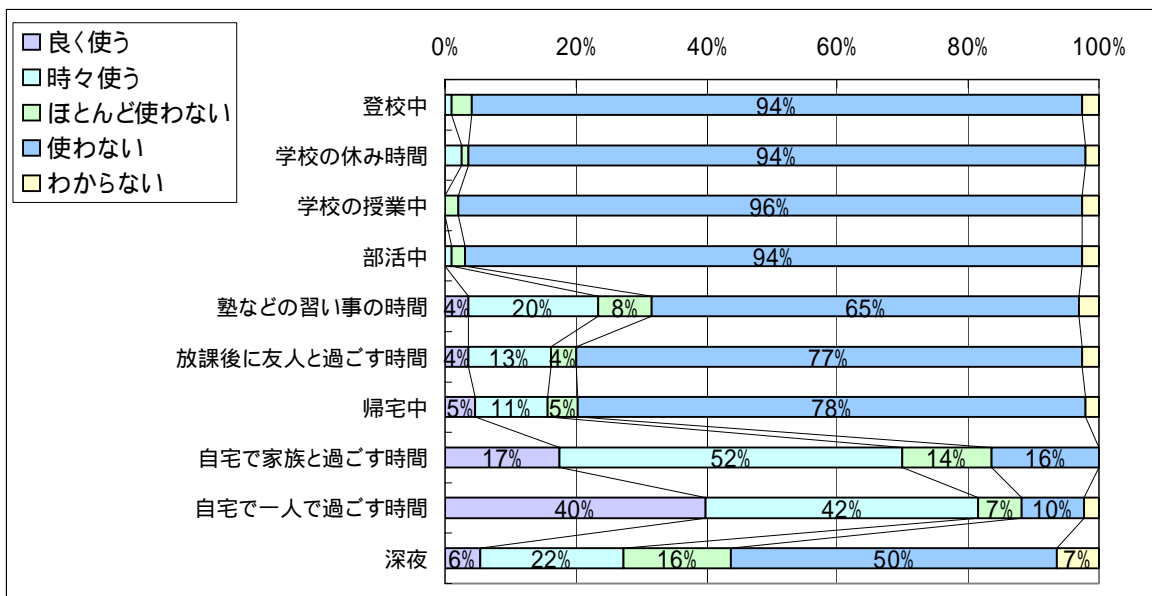


一方、中高生での違いもある。特にその違いが顕著に表れるのは学校での利用である。中学生では、学校での休み時間であっても携帯電話の利用はほとんど見られないが、高校生になると休み時間はもちろんのこと授業中などでも 3 割を超える割合で日常的に利用している様子が見て取れる。ただし、登下校中に関しては電車通学など、通学距離・時間共に高校生になることで増える環境に変わることもあるので、校区が分けられた義務教育の中学校とは違った傾向が出るのは当然だろう。

もう一点考慮すべき事項がある。それは中高生の深夜帯での携帯電話利用である。これは、保護者側の状況認識を尋ねた質問の傾向と大きく異なっている。

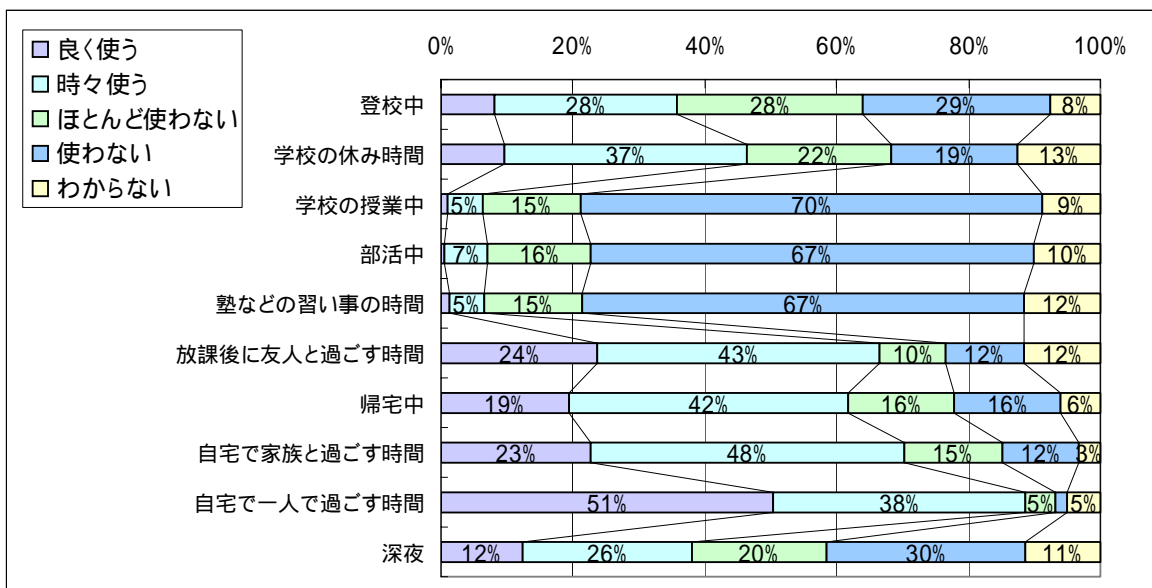
【中学生保護者のeメール利用状況認識】

N=199    N=198    N=199    N=197    N=196    N=198    N=196  
N=208    N=211    N=201



【高校生保護者のeメール利用状況認識】

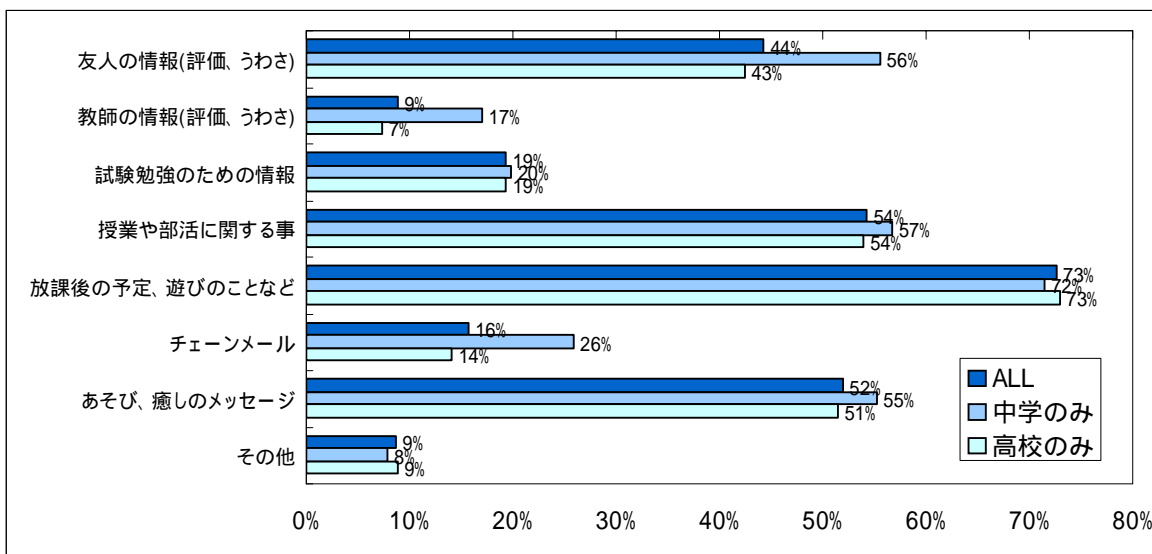
N=964    N=967    N=966    N=930    N=835    N=961    N=969  
N=965    N=981    N=958



深夜の携帯電話利用の実態は、保護者にほとんど認識がない。これは日頃から学習などで寝る時間が遅くなる中高生より保護者の方が先に就床するなど携帯電話の利用を目視する機会があまりないことなどが考えられる。だが、深夜時間帯での交友は生活全般への影響など、子育てや教育の上で注意が必要な事柄であろう。

次に、中高生がやり取りしているメールの内容を見てみたい。「放課後の予定、遊びのことなど」が最も多いメールの内容となっており、中高生共に70%以上の割合となっている。後ほど保護者側の認識として携帯電話は親子の連絡手段と意識されているのに対して、中高生では遊びのツールとして利用しているという実態が窺える。また、「授業や部活に関する事」、「友人の情報」、「あそび、癒しのメッセージ」がそれに続く。内容の方で特筆すべきは、チェーンメールである。中学生でチェーンメールをやり取りしている割合は26%に達しており、チェーンメールがネットワークに悪影響を及ぼすという認識が不十分なのか、チェーンメールの内容によって巧みに誘導されてしまっているのか分からないが、中学生向けの教育などでフォローしていく必要があるだろう。

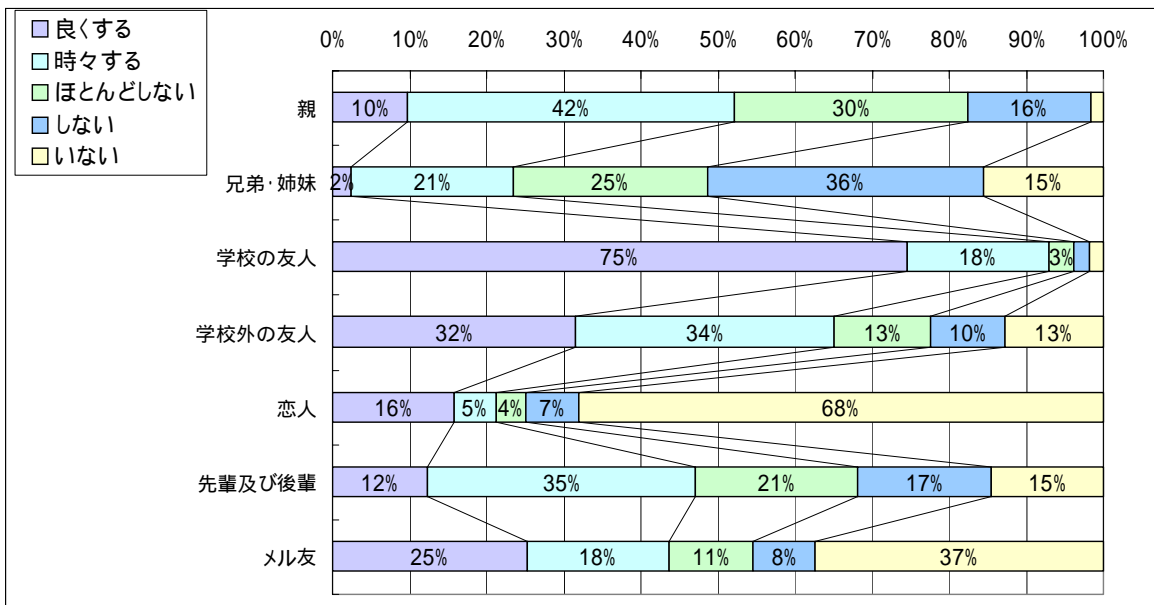
【メールでやり取りしている内容】<中学生(n=487)、高校生(n=2,932)>



メールのやり取りを行う相手についてはどうであろうか。中学生、高校生共にその全体傾向は似通っているが、「メル友」に関しては中学生でそのやり取りの割合が高い。ここで言う「メル友」とは、実際に会ったことのないメールのやり取りだけの友人である。中学生の43%が日常的にメル友とやり取りをおこなっている。

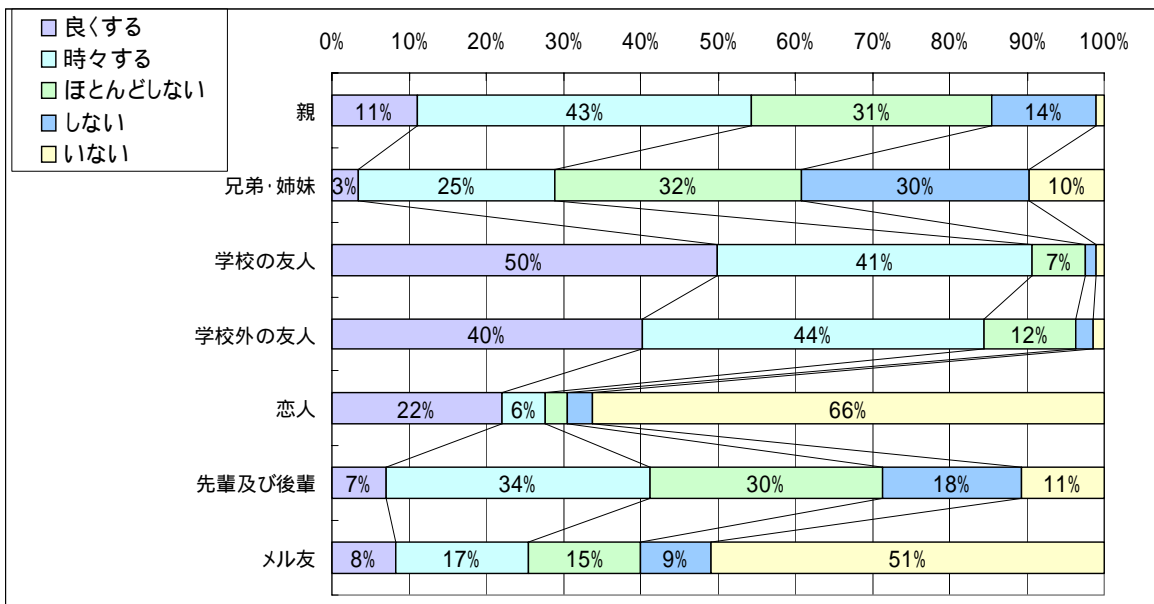
【中学生のメール相手】

N=478    N=491    N=500    N=501    N=492    N=499    N=497



【高校生のメール相手】

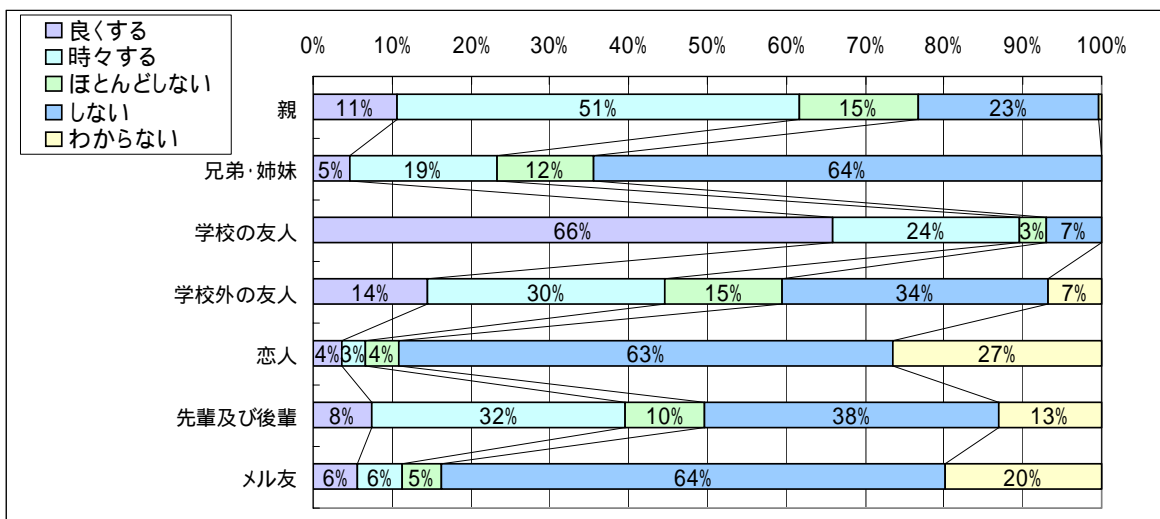
N=2843    N=2973    N=2977    N=2981    N=2906    N=2960  
N=2958



また、特に中学生保護者の認識が低いメールのやり取り相手として「学校外の友人」が挙げられる。「学校外の友人」に関して高校生保護者ではあまり生徒の実態と乖離がないが、中学生保護者ではそもそも「学校外の友人」とのやり取りが発生しているという認識があまりないのかもしれない。「メル友」などから派生して実際に会うようになった友人や、習い事などで知り合った友人などが考えられるが、共に交友関係の拡大を保護者が把握し切れていない実情が垣間見える。

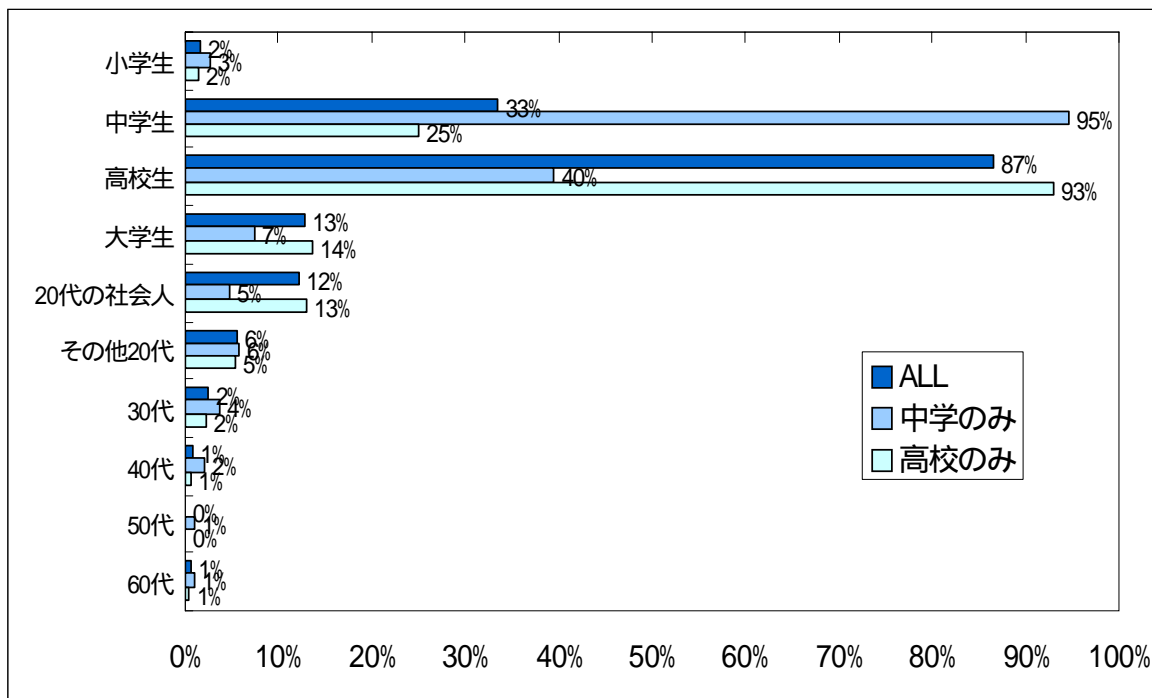
【中学生保護者が認識するメールのやり取り相手】

N=198    N=194    N=211    N=202    N=196    N=200    N=196



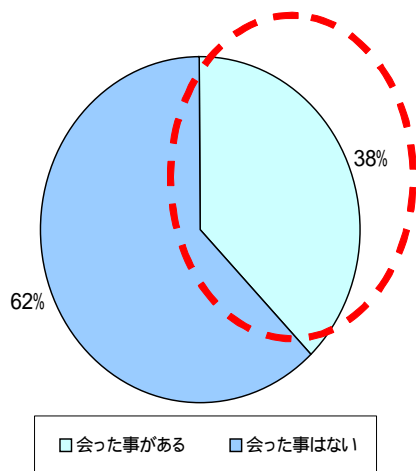
「メル友」について詳しく見てみよう。メル友の年齢構成は、中学生、高校生共に同年代がその対象の大半を占めているようである。

【メル友の年齢】 < 中学生 (n=190) 高校生 (n=1,377) >

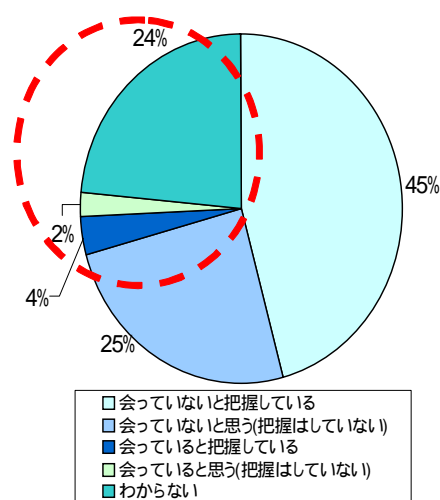


また、メル友との体面経験について質問したところ、中学生で 32%、高校生で 38%が実際に会った事があると回答している。

【メル友との対面経験】 < 中学生 (n=146) >



< 中高生保護者 (n=1,116) >



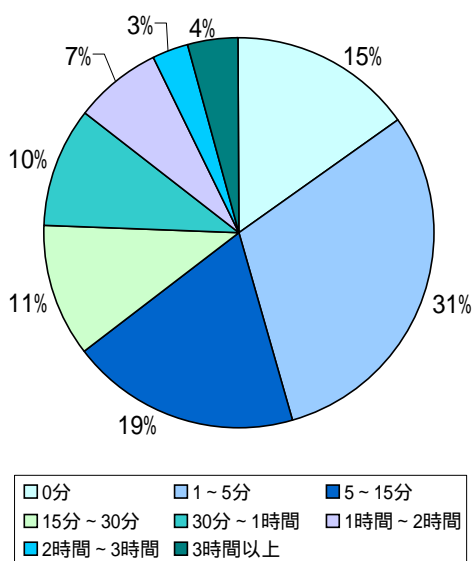
「メル友」は同世代が中心であるとは言え、携帯電話が新しい出会いの支援ツールとなっている事は否めないだろう。

## 2 - 5 . Web アクセス

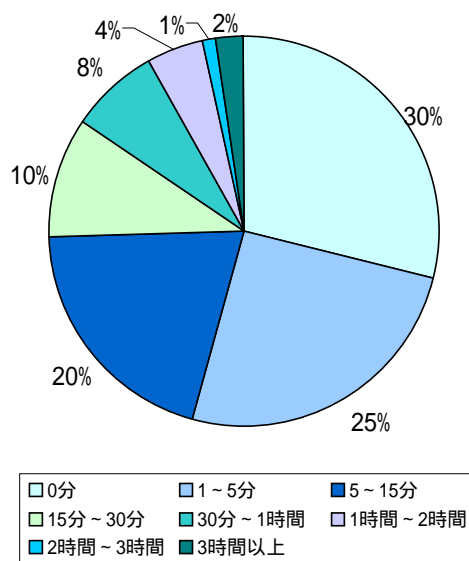
前項では携帯電話のeメール利用状況について見てきたが、本項ではWebアクセス（携帯電話からのインターネット利用）について確認したい。

### 【モバイルインターネット利用時間（日）】

< 中学（n=490） >



< 高校（n=2,957） >

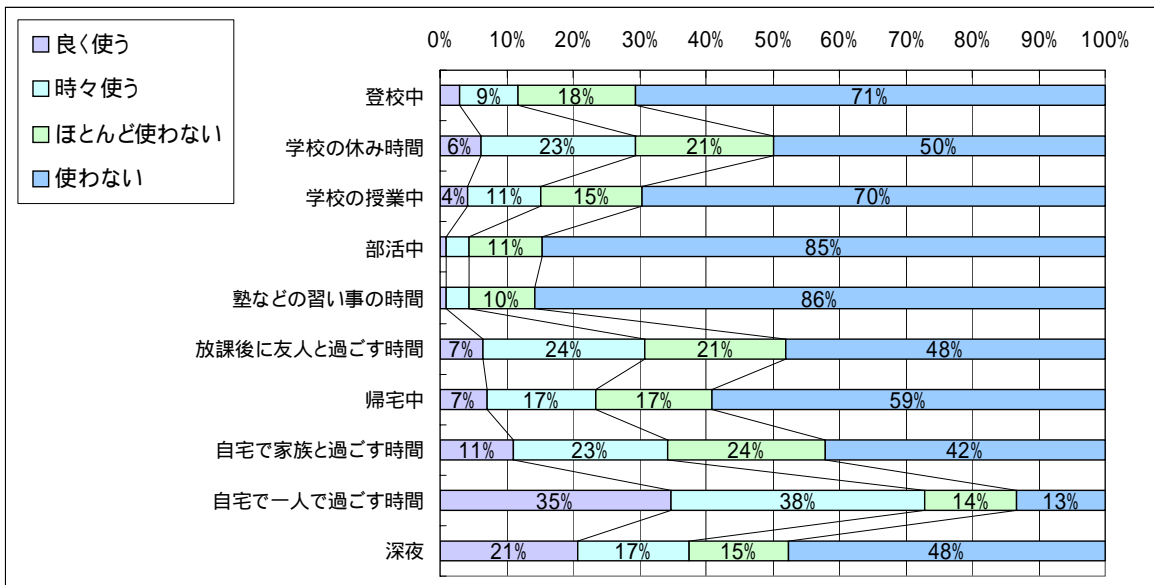


eメールの傾向と異なり、Webアクセスに関しては全く利用しない生徒の割合がある一定の割合で存在する。中学生では30%、高校生では15%が利用していない。また、利用時間で見ても1以上～30分未満にボリュームゾーンが出ており、まとまった時間をWebアクセスに要していないことが窺える。

一方、利用時間帯の方はどのようになっているだろうか。中学生、高校生共に利用時間帯はeメールとほぼ同じ状況となっている。前項で解説を行ったのでここでは省略するが、全体傾向のグラフだけ以下に掲載する。

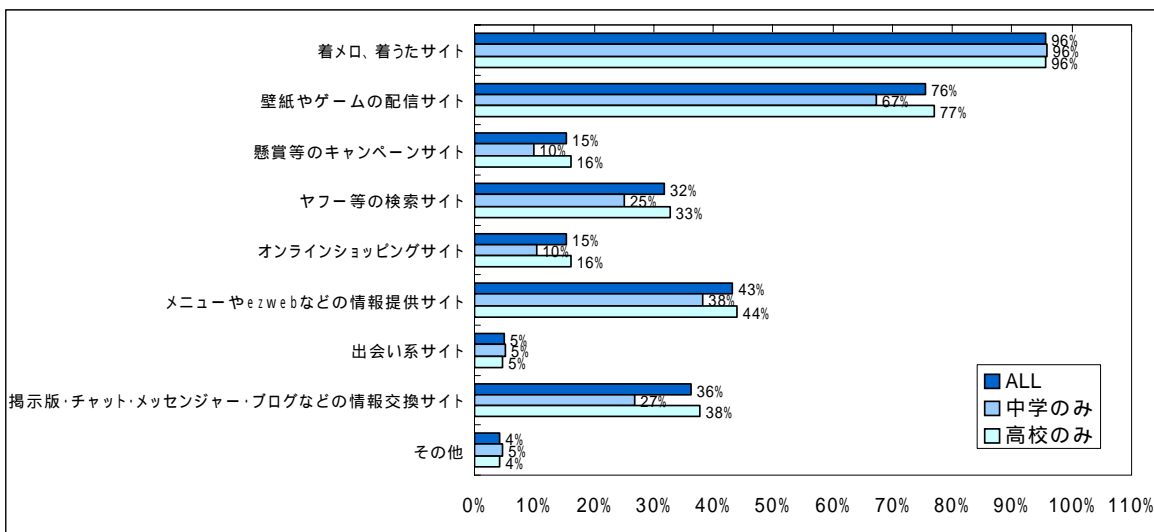
【中高生のモバイルインターネット利用時間帯】

N=3461    N=3462    N=3463    N=3335    N=3222    N=3459  
N=3424    N=3418    N=3428    N=3424



【中高生におけるモバイルインターネット利用・閲覧サイトの種類】

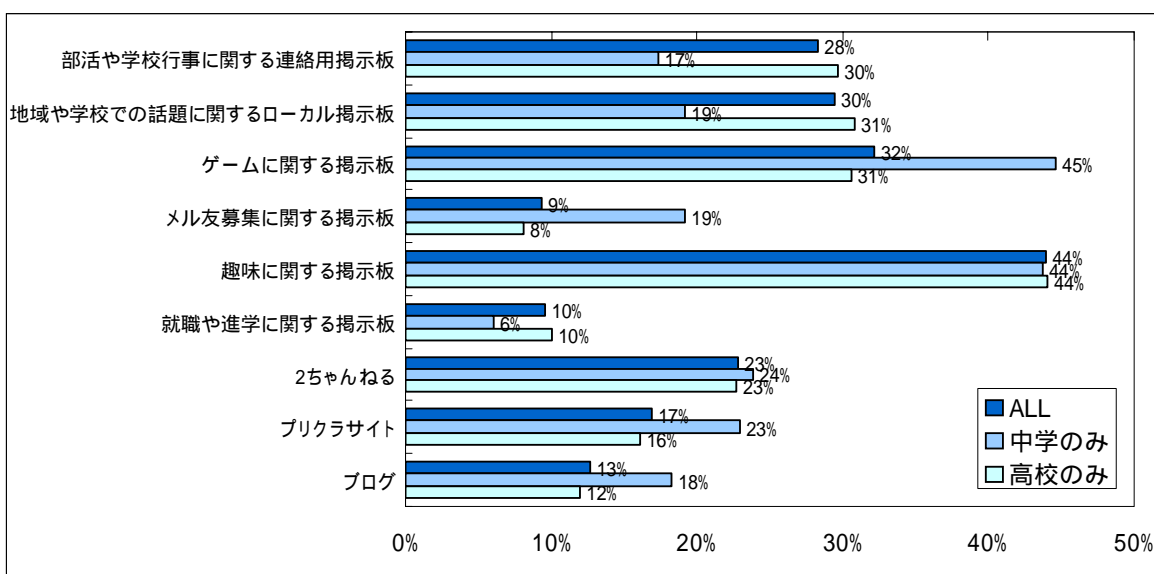
< 中学生 (n=472) 高校生 (n=2,909) >



次に、どのようなサイトを閲覧しているのか見てみたい。着メロ、着うた、壁紙、ゲームといった娯楽コンテンツで利用率が高い。またその次に来るのは、iメニューやEZwebの情報提供ポータルサイトである。一般ニュースやスポーツニュース、天気予報などが確認できるので日常生活の情報ソースとして活用されているのだろう。

社会問題として取りざたされる事が多い「出会い系サイト」は中学、高校共に5%の利用状況となっている。この数字が大きいのか小さいのかは意見が分かれるところであるが、ここではもう一つの着目点を紹介したい。それは、「掲示板・チャット・メッセージ・ブログなどの情報交換サイト」である。

【情報交換サイトの利用経験】 < 中学生 (n=213) 高校生 (n=1,624) >



インタビューなど定性調査を行った結果、趣味に関する掲示板などで知り合い、eメールのやり取りに発展するいわゆる「メル友」が上記グラフのような情報交換サイトで生まれている。明らかに分かるような「出会い系サイト」の利用は5%であるが、同世代のメル友が増える切っ掛けは情報交換サイトの利用から広がっているようである。

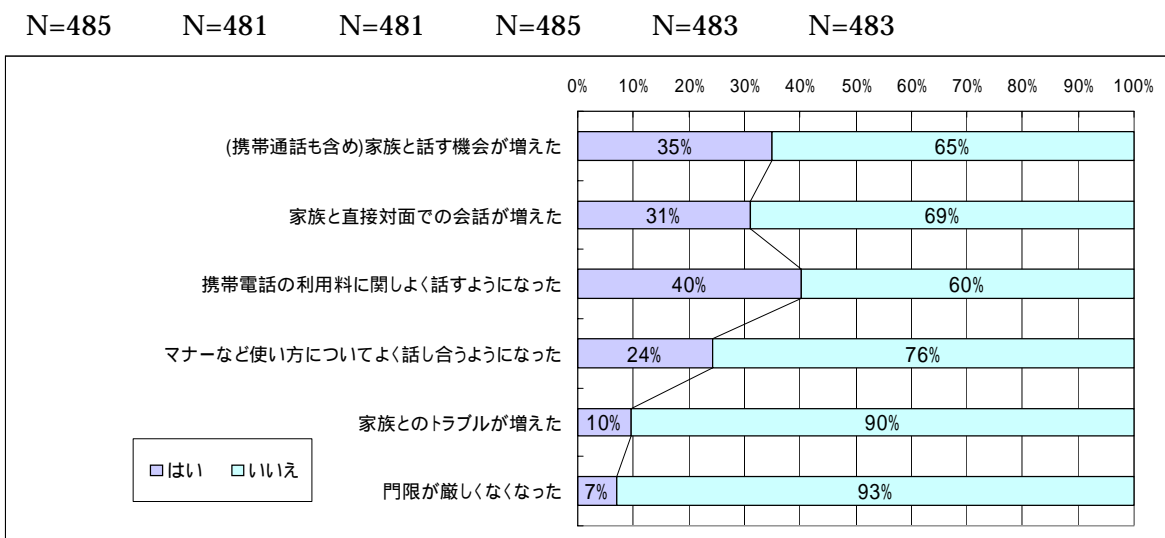
昨今、携帯電話のゲーム以外にもNintendo DSやPSPといった小型のゲーム機が好調な販売状況にある。中にはネットワーク接続で同じゲームをしている人達と短いメッセージが交換できるものもある。こういった今現在ほとんどノーチェックになっている手段もメル友の出会いの場を提供している可能性が高いと思われる。

## 2. 保護者の状況把握

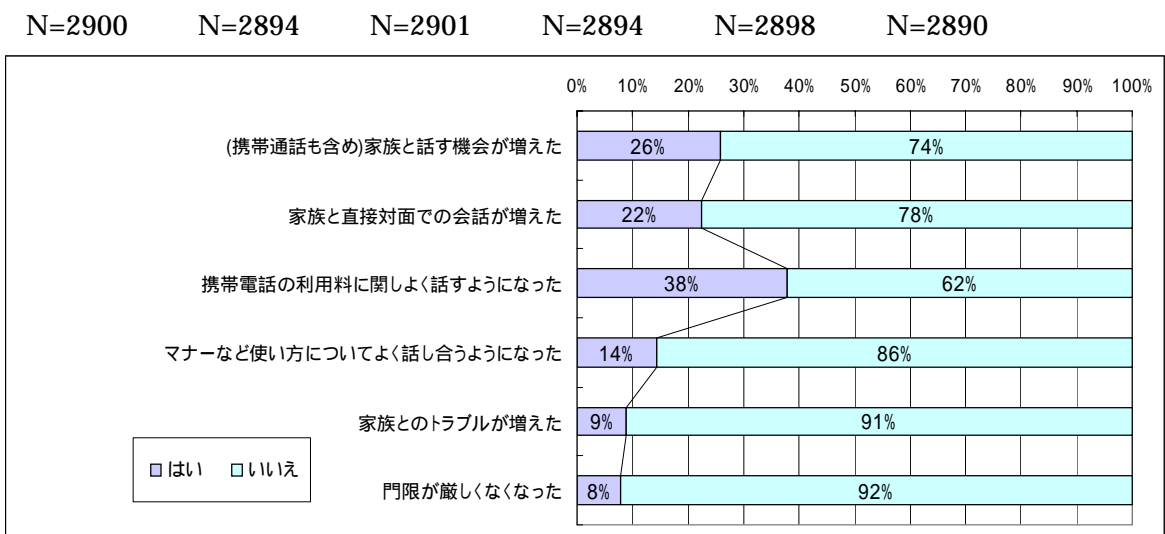
### 2-1. 家族関係の変化

この章では、保護者向けアンケートの結果を中心に子どもと保護者の関係を捉えてみたい。携帯電話がもたらした親子の関係変化について見てみると、中学生、高校生共にポジティブな影響が出ていると答える生徒の割合が30%前後いる事が分かる。特に中学生は顕著で携帯電話というコミュニケーションツールを渡すことで、それを切っ掛けとした会話などで日常生活への保護者の関与度合いを高めることができると思われる。思春期を迎えて子育てが難しくなるタイミングにおいて、共通の話題でもあり、かつ社会が大きく広がる情報メディアが適切な形で子どもたちの手に渡る事がなにより重要ではないだろうか。

#### 【中学生における携帯電話利用に伴う家族関係の変化】



#### 【高校生における携帯電話利用に伴う家族関係の変化】

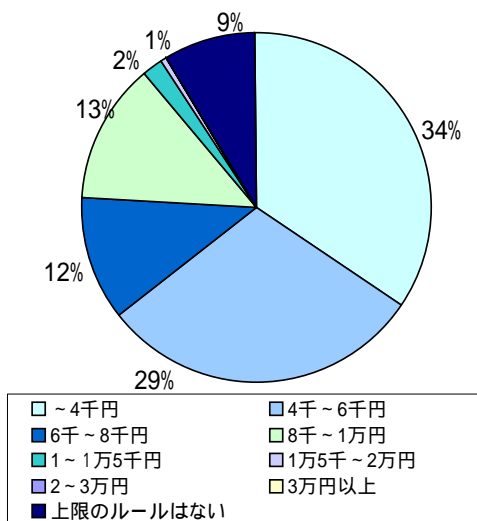


2 - 2 . 携帯電話料金（家庭内ルール）

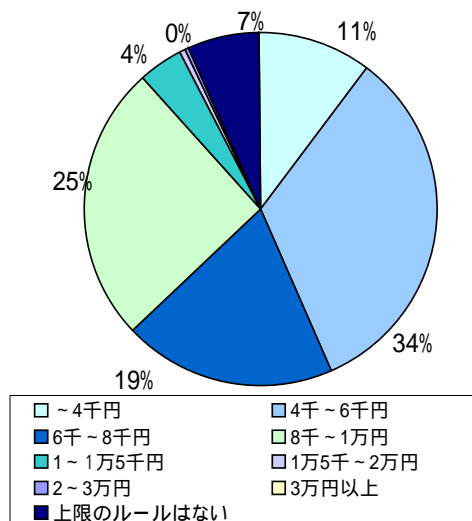
では次に、家庭内ルールのトップに挙がっていた携帯電話料金の問題から入って保護者の認識に触れていきたい。高校生では家庭で定めた上限額と実際の利用額にあまり差がないが、中学生では上限額の方が実際の利用額より少し低い水準に設定されているようである。

本調査では、生徒母集団と保護者母集団に親子関係がないサンプルも含まれているため、一概に比較する事はできない。ただし、携帯電話の利用料金は各携帯電話キャリアが公表している ARPU より低い水準に設定されているため、事業者が提供している料金の通知サービスなどでは低い価格帯での通知を行う事が子どもの健全育成を考えた場合に親切な対応ではないだろうか。

【携帯電話利用上限額】 < 中学生 (n=206) >



< 高校生 (n=982) >

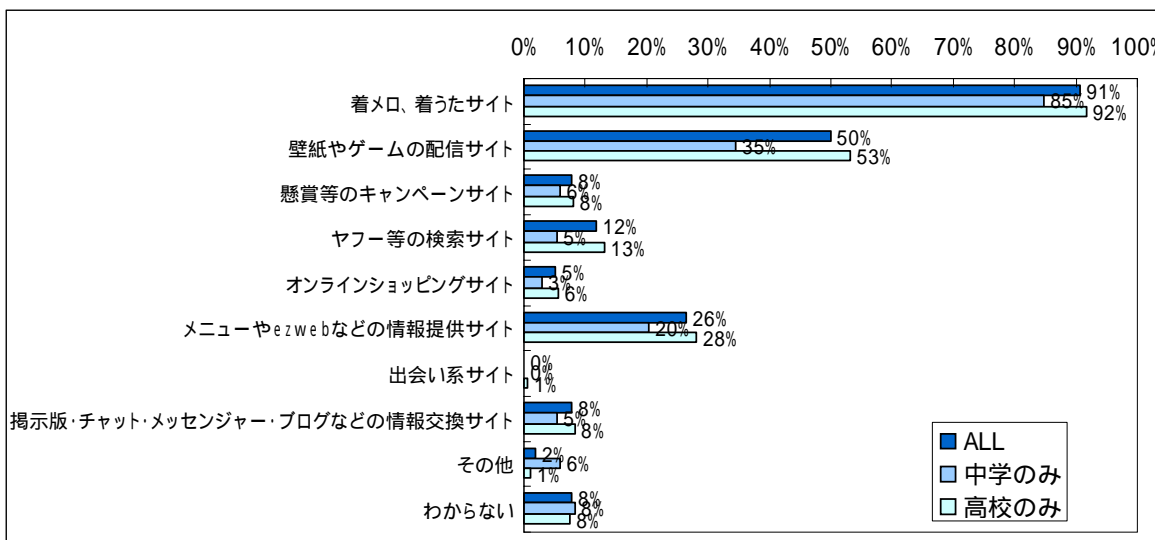


### 2 - 3 . 携帯電話の利用内容

eメールとメル友については、子ども側の解説に保護者の把握状況を紹介したので個々では割愛するが、子どもが利用している Web アクセスについて以下のグラフで補足しておきたい。着メロ、着うた、壁紙やゲームなどの利用、通信キャリアの情報提供サイトは利用している実態をほぼ把握していると言っても大丈夫であろう。だが、「出会い系サイト」や、情報交換サイトについては保護者側の認識は非常に低い。「うちの子に限って」という心理も働いているのかもしれないが、先に紹介したeメールとメル友の状況も含めて、携帯電話が活動範囲を広げるコミュニケーションツールであるという認識があまりなく、子どもたちは目に見えている範囲での活動に留まった日常生活を営んでいるという先入観があるのかもしれない。

#### 【保護者が把握しているモバイルインターネット利用サイト】

< 中学生 (n=203) 高校生 (n=964) >

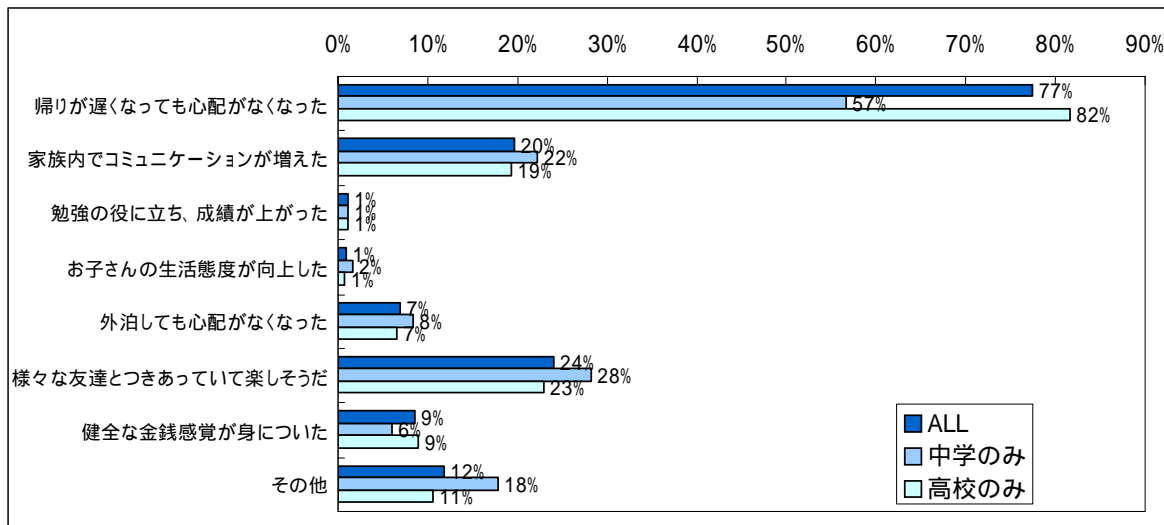


## 2 - 4 . 携帯電話の功罪

携帯電話利用のメリットは、保護者側では「帰りが遅くなっても心配がなくなった」、「様々な友達と付き合っていて楽しそうだ」、「家族内でのコミュニケーションが増えた」という項目が高い割合で挙がっている。

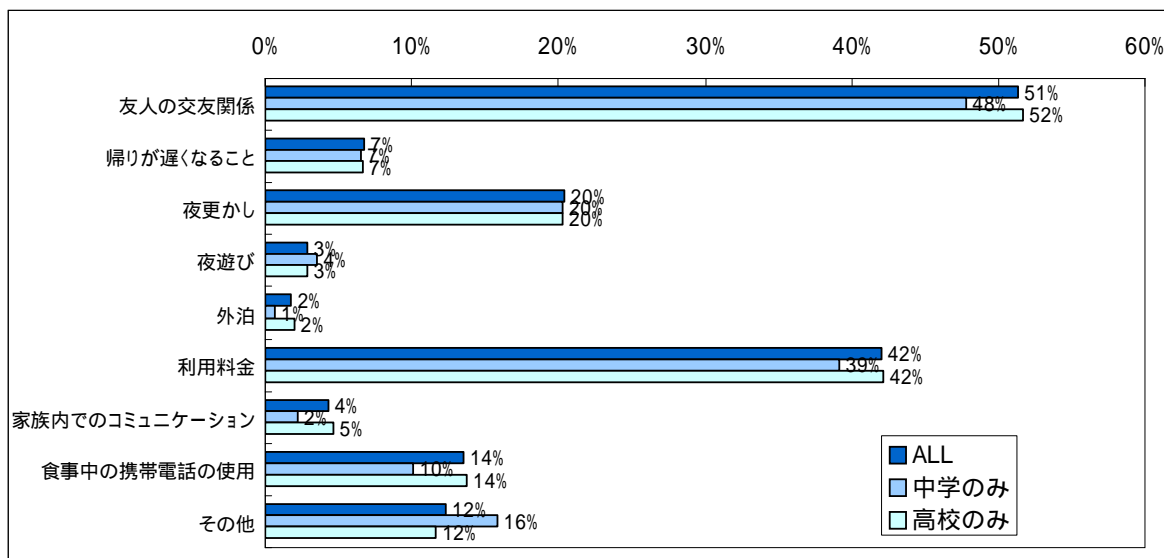
### 【子どもに携帯電話を持たせて良かった点】

< 中学生保護者 (n=180) 高校生保護者 (n=907) >



### 【子どもとの対応で難しくなった点】

< 中学生保護者 (n=138) 高校生保護者 (n=698) >



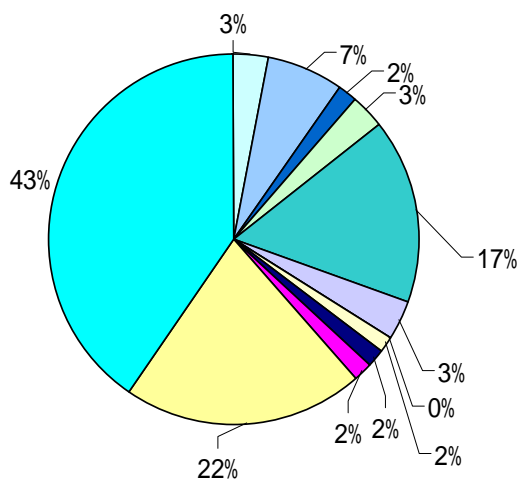
また、デメリットとして子どもとの関係で難しくなった点を質問したところ、「友人の交

友関係」と「利用料金」が挙げられた。保護者の認識としてこの2つが大きな問題となっ  
てきている事は、eメールやWebアクセスの利用状況や、家庭内ルールの話からも明らか  
になっている重要なポイントである。

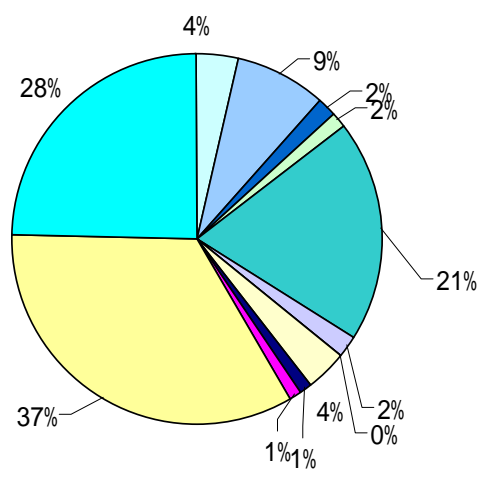
子どもから携帯電話に関連したトラブルの相談を受けた保護者の割合は、中学生の保護  
者で27%、高校生の保護者で18%となっている。そして相談の内容は以下のグラフのよう  
な内訳となっている。「不当請求・架空請求」及び「通信料支払いの悩み」が挙がってき  
ている。だが、中学生で43%、高校生で28%がこのカテゴリーに該当しない「その他」とな  
っている。ボリュームとしては大きいので今回のアンケート調査では把握できていないト  
ラブル内容があるのかもしれない。

【携帯電話利用に関して子どもから相談されたトラブル内容】

< 中学生 (n=58) >



< 高校生 (n=171) >

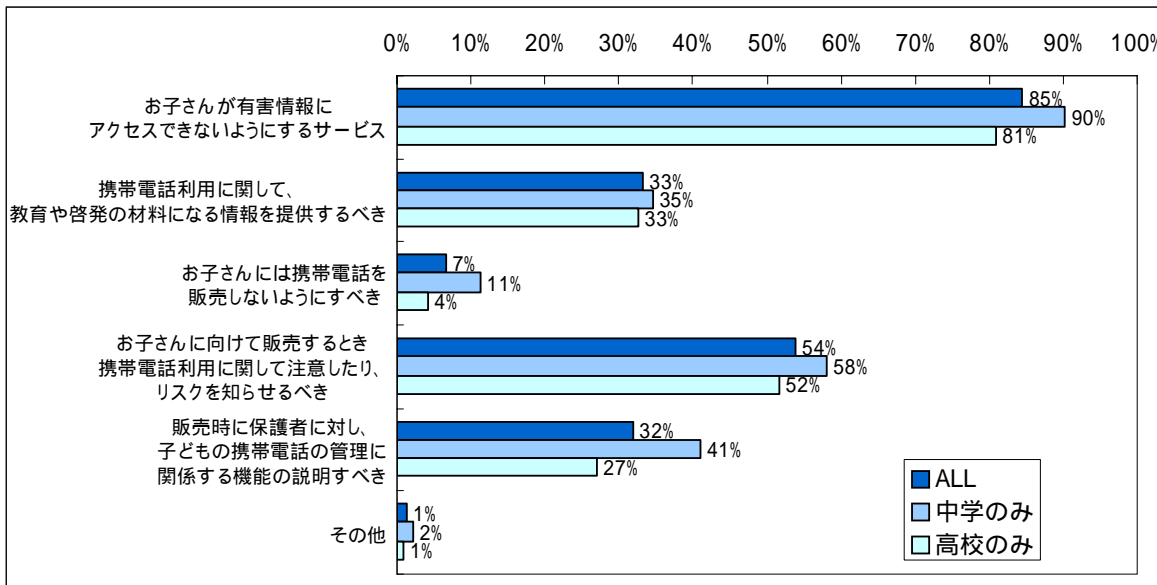


携帯電話を使ったいじめ	匿名メールによる誹謗中傷	掲示板上での誹謗中傷
カメラつき携帯電話での盗撮	不当請求・架空請求	出会い系サイト関連の相談
ストーカー問題	個人情報の流出	ネットショッピング、ネットオークション詐欺
お子さんの生活の乱れ	通信料金支払いの悩み	その他

最後に、保護者が携帯電話キャリアに求める支援について触れておきたい。やはり情報  
環境自体のクリーン化や、販売時の注意喚起・啓発活動に期待が寄せられている。一方で、  
交友関係などについてはフリーアンサー含めてコメントが挙がってきておらず、家庭の問  
題・保護者と子どもの責任という自覚があるようである。

【携帯電話キャリアによる支援への要望】

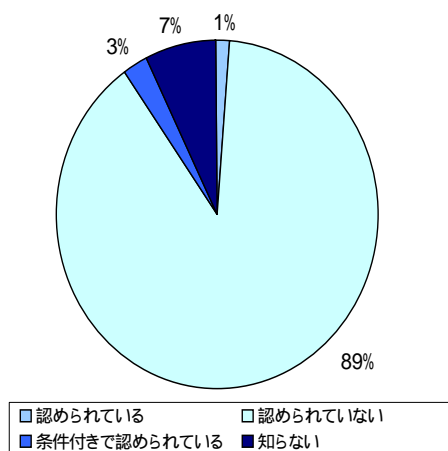
< 中学生保護者 (n=412)、高校生保護者 (n=712) >



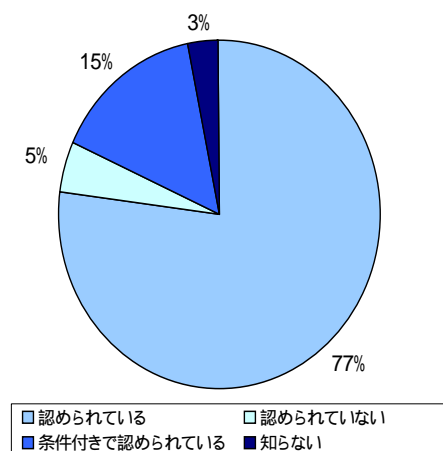
3. 教職員の状況把握

中高生の生活を考えた場合、その主な場所は学校であろう。学校への携帯電話持ち込みはどのような状況にあるのだろうか。その様子は、中学生と高校生で大きく異なる。中学校では、89%が持ち込めないのに対して、高校では条件付を含めて 92%が持ち込みを認めている。(条件とは、届け出や学校内で電源を切る事など)

【学校への携帯電話持ち込み可否】 < 中学生 (n=300) >



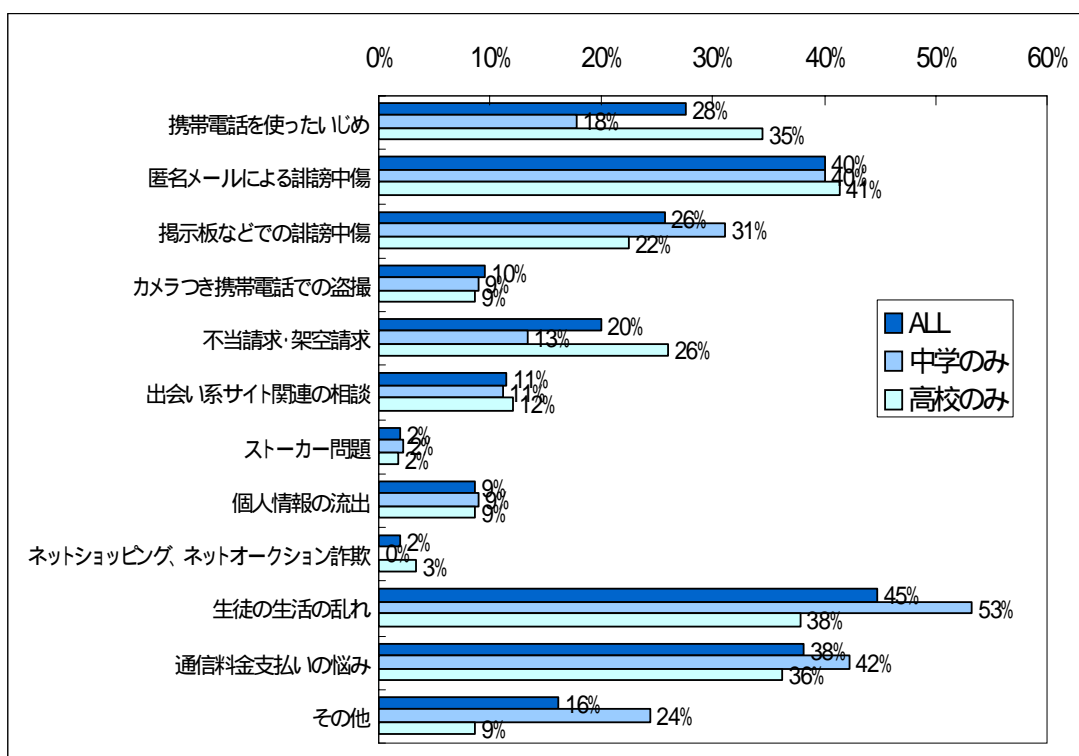
< 高校生 (n=515) >



では、携帯電話が学校に持ち込まれた事によって何か変化は出ているのだろうか。教職員側の対応はどのようになっているのだろうか。中学高校共に教職員の 32%が携帯電話に関連した相談を生徒もしくは保護者から受けた事があると回答している。また、相談件数が増えていると考えている教職員の割合は、中学校で 63%、高校で 27%となっており、中学高校共に携帯電話が学校生活で無視できない存在になってきている事が分かる。

相談内容については、「生徒の生活の乱れ」など生活全般に変化が及んだ見方がされている。携帯電話によって広がった交友関係の変化なども無関係ではないだろう。

【教職員への携帯電話関連の相談内容】 < 中学教師 (n=45) 高校教師 (n=58) >



4. まとめ

中学生、高校生の携帯電話利用実態を調べたところ、やはり Web アクセスなどでの出会いからメル友に発展し、実際はかなり高率で対面につながっていく交友関係と、料金に関する家庭の負担が大きなトピックとなっている。

交友関係に関しては、「出会い系サイト」だけではなく、情報交換サイトに気をつける事や、携帯ゲーム機を利用したネットゲームでの場の提供など、保護者が気づきにくいチャンネルが使われつつある実情がある。同類の利用形態に対してどのような対策を採っていく事ができるのか、業界や保護者・学校との総合的な対応が必要である事を今回の調査は示唆している。

以上